



事務局

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2階

財団法人 河川環境管理財団内 全国水環境マップ実行委員会事務局

TEL : 03-5847-8303

連絡事務局

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町3-23-2 小松ビル3階

TEL/FAX : 042-327-3169

E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL : <http://www.japan-mizumap.org>

平成18年12月発行

身近な水環境の 全国一斉調査

●● 未来に残そうあなたの水辺 ●●

調査結果概要 2006

目次

I	調査の背景		P. 1
II	調査の実施手法		P. 2
III	調査結果の概要		P. 4
	2006 全国水環境マップ 第3回 身近な水環境の全国一斉調査結果		P. 5
	2004 全国水環境マップ 第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果		P. 6
IV	各ブロックでの調査結果		P. 7
	北海道地方	P. 7	近畿地方 P. 12
	東北地方	P. 8	中国地方 P. 13
	北陸地方	P. 9	四国地方 P. 14
	関東地方	P. 10	九州地方 P. 15
	中部地方	P. 11	沖縄地方 P. 16
V	一斉調査結果の活用事例紹介		P. 17
VI	身近な水環境を調べよう! 第4回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い		P. 21
VII	全国水環境マップ実行委員会名簿		P. 21
	第4回「身近な水環境の全国一斉調査」参加申込書		P. 22



I 調査の背景

近年、河川や水辺など身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まっています。市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていません。このような多くの結果を有効に利用するためには統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。

多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉に調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。そのため全国で水質調査を実践している市民団体等が国土交通省及び財団法人河川環境管理財団と連携して、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、全国の水環境マップを作成することにしました。

「身近な水環境の全国一斉調査」により多くの河川などで水辺の様子や水質などの現状が把握できます。一斉調査は当日の天候にも影響されますが、さらに継続して実施することにより水環境の変化やその原因などが明らかになります。市民が自ら水質を調査し、水環境の実態を明らかにすることにより、その保全と修復に関する今後の活動へ発展することが期待されます。

「身近な水環境の一斉調査」は2004年6月に開始され、3年間で延べ20,000人超の市民や学校の子どもたちが参加しました。今後もこの調査を継続することにより、水環境に対する市民の理解と関心がさらに高まり、多くの地点で調査が実施されることを期待しています。

目的と意義

- ① 身近な水環境を簡単な方法で自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
- ② 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
- ③ 身近な水環境の調査結果をすぐに知ることができる（行政による水質調査結果の公表はおよそ1年後である）。また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
- ④ 河川などの流域で、多くの人たちが調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
- ⑤ 同一条件で調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
- ⑥ 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
- ⑦ 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
- ⑧ 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
- ⑨ 調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
- ⑩ 子どもたちが調査に参加することにより、100年の眼で将来に活動を引き継ぐことができる。



II 調査の実施手法

調査の概要

- 調査日： 2006年6月4日(日)を中心に実施
- 調査者： 『全国水環境マップ実行委員会（委員長：小倉紀雄 東京農工大学名誉教授）』
のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加
- 調査内容・方法： 調査マニュアルに基づき、簡易器材でCODを測定

調査項目

気温・水温・試水水温

一斉調査の調査票には、現地の気温・水温・試水水温と三種類の記入欄があります。現地の気温と水温を記入することで、同一日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することが出来ます。また、バックテスト(※1)でCODを測定するためには試水水温が重要な要素であり、試水水温を測定することでバックテストの反応時間を把握して、より正確な測定を実施することができます。

COD（化学的酸素要求量）(※2)

水質汚濁の指標の一つとして用いられます。今回の一斉調査では同一のロット番号(製造番号)のバックテストを用いています。また、同一試料を三回測定し、それらの中央値を採用することでより正確な測定を実施することができます。

※1 バックテストは、株式会社 共立理化学研究所の登録商標です。

※2 バックテストの化学的酸素要求量(低濃度)を(COD(D))と表現することとしています。

調査の手法

採水

- ① 雨天や増水などによる調査の中止も考慮し、これまでに調査を継続してきた地点や新たに調査してみたい地点を決定します。調査地点を調査票(P3-図1)に記入します。
- ② より正確なデータ測定のため、水質の時間変化を考慮し採水時間は午前中に行ないます。
- ③ 試水を入れる容器は予め良く洗って乾かし、採水地点名・記号・採水日時を明記しておきます。採水器具や試水を入れる容器は、採水を行う川の水で十分に共洗いします。
- ④ 浅く流れが穏やかな川では、川に入り川の中央で上流に向かって採水し、深い川や流れの速い川では、橋などの上からロープをつけたバケツを下ろし採水します。舞い上げられたゴミなどが混入しないよう十分注意して行います。
- ⑤ 調査月日・調査時刻・天気とともに、採水地点の気温と採水した試水の水温を測定し調査票に記入します。

COD(D)値の測定

- ① 試水の温度を測定し反応時間を決定します。
- ② バックテストのラインを抜き取ります。バックテスト専用カップ(バックン)にスポイトで試水を目盛りまで入れます。(約1.5ml)バックテストの空気を抜き、試水を全て吸い上げます。4~5回ゆっくりふり①で決定した反応時間で測定を開始します。
- ③ 反応時間終了後ただちに標準色と比べ、測定値を調査票に記入します。
- ④ 同じ試水で3回測定します。



第3回 調査票

図1

提出期限: 2006年6月30日

身近な水環境の全国一斉調査 調査票 (2006年)		No.
郵送元: 〒106-0021 東京都港区赤坂南 1-20-2 水環境ビル3F みずがみり研究センター 全国水環境マップ実行委員会 〒106-0021 東京都港区赤坂南 1-20-2 水環境ビル3F 電話: 03-837-2928 Fax: 03-837-2929 E-mail: mikumiri@stn.jp		合計
調査者 調査地情報		
調査グループ(個人)名		注意:
調査票記入者(責任者)名		
調査川等の名称		
都道府県名	市区町村名(旧名)	
調査の目的等 (※調査の目的や調査の経緯を記入してください。) ※上記地点の地理情報(経緯)を記入してください。	事務所より調査地点登録が完了した場合は、この欄に「登録済み」と記入してください。	
広域・河川等の名称	北緯 度 分 秒 東経 度 分 秒 (国土地理院のホームページ: http://water.nes.go.jp/ を参照)	
河川以外の場所を調査される場合は	上記調査地点が農業用水路やため池や河川以外の水域である場合は、調査者の氏名を記入してください。必ず長さを記入してください。	
調査結果		
採取月日(西暦)	月	日
採取時間	分	秒
採取場所	天候	時、風、雨
測定項目	(○) 測定値	(○) 測定方法(測定時)
CO ₂ D (mg/L)	測定値 1回目	0・1・2・3・4・5・6・7・8以上 (○印を付ける)
水質汚濁 総合指数 (BOD5・COD・SS・NH ₄ -N・NO ₃ -N・NO ₂ -N・TP・濁度・pH)	測定値 2回目	0・1・2・3・4・5・6・7・8以上 (○印を付ける)
	測定値 3回目	0・1・2・3・4・5・6・7・8以上 (○印を付ける)
・以上の欄の記入は必須ではありません。 COD測定法は、(○) 500mg/L (○) 100mg/L (○)		
圧力計・電気伝導度・溶解酸素・アンモニア態窒素・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素・硝化細菌数・バクテリオフィジウム		
その他調査された項目を記入下さい		
採り手等(河川の状況、河川敷、散乱品の状況)		
注意: 1. 本調査票は本年全国一斉調査の調査票として活用されます。 2. 過去に参加された調査グループの名前が、名称が異なる調査グループに引き継がれ、重複して記録される場合があります。 3. 調査結果を公表する場合は、必ず調査票に記入してください。 4. 調査票記入者(責任者)の名前、住所等は本調査の目的以外に使用されることはありません。 5. COD5mg/L以上の場合は、必ず本調査のホームページ http://www.superrivermap.jp/ で詳しくご報告ください。 ▲裏面にも記入下さい。		

調査結果の概要

昨年度と同様に47都道府県で調査が実施され、各地で独自のマップが作成されています

昨年度と同様に47都道府県で調査が実施され、佐渡島、屋久島、石垣島、西表島などからの参加もあり、全国各地に調査地点があります。

また、各地で本調査結果を用いて、自分たちの身近な河川などで独自のマップづくりがなされており、事務局にもその成果が報告されています。

調査実施日・調査地点数

全国統一日に実施された調査

調査日 2006年6月4日(日)
 参加団体数 587団体 (個人)
 調査地点数 3,044地点

海外で実施された調査

中国 調査地点数 3地点

国内で実施された全ての調査

期間 2006年5月4日～7月23日まで

参加団体数 944団体 [参考: 第1回 531団体、第2回 1,000団体]
 調査地点総数 4,923地点 [参考: 第1回 2,545地点、第2回 5,018地点]

調査のまとめ

市民と行政の連携が始まった、この「身近な水環境の全国一斉調査」も3年目を迎え、参加者募集から調査の実施、参加者からの調査結果の回収及び整理とりまとめ、調査結果の公表といった一斉調査の一連の作業内容が概ね確定してきたところです。

調査結果については、昨年度とほぼ同数の約5,000地点で調査が実施され、8,400人を超える人々が調査に参加しています。今後も、この調査の目的と意義にもあるように『水環境に関心を持つきっかけづくり』としての役割を果たしていきたいと思えます。

また、今年度は調査票へのCOD測定値の記入を記述方式からチェック方式に変更したためCOD調査結果の不明瞭な記入が少なくなり、より精度の高い調査結果の取りまとめにつながりました。

調査結果を取りまとめた、全国マップ及び地方ごとの広域マップは全国水環境マップ実行委員会が作成していますが、各流域単位や河川で参加団体独自のマップづくりやデータ活用事例が報告されており、今後も全国各地で独自のマップづくりが行なわれていくことが期待されます。

さらに本年4月には、参加者に対する一斉調査の情報提供及び意見交換の場としての活用を目的とした本調査専用のホームページの開設を行っています。HPではマニュアル類、調査票などがダウンロードできるようになっていますので、是非ご活用ください。

【HPアドレス】 <http://www.japan-mizumap.org>

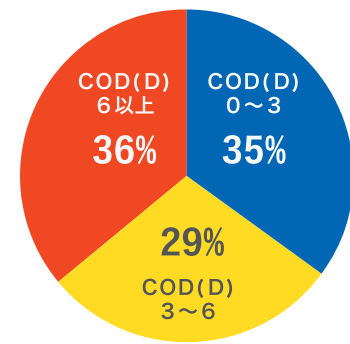


2006 全国水環境マップ

第3回 身近な水環境の全国一斉調査結果

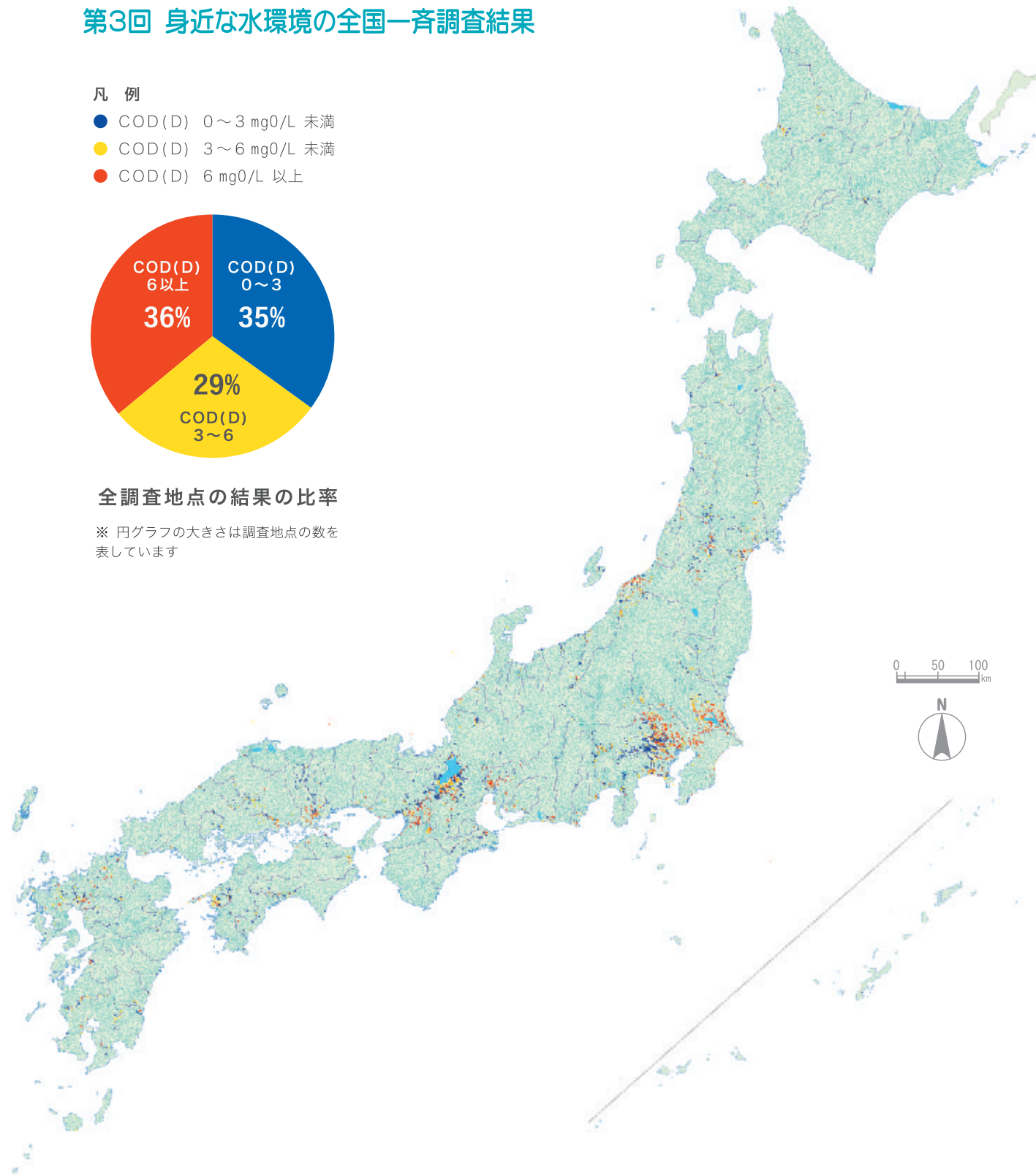
凡例

- COD(D) 0～3 mg0/L 未満
- COD(D) 3～6 mg0/L 未満
- COD(D) 6 mg0/L 以上



全調査地点の結果の比率

※ 円グラフの大きさは調査地点の数を表しています

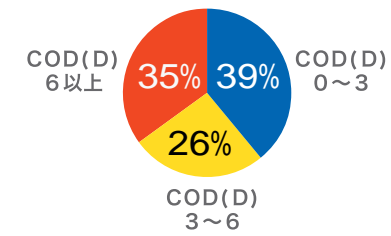


2004 全国水環境マップ

第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果

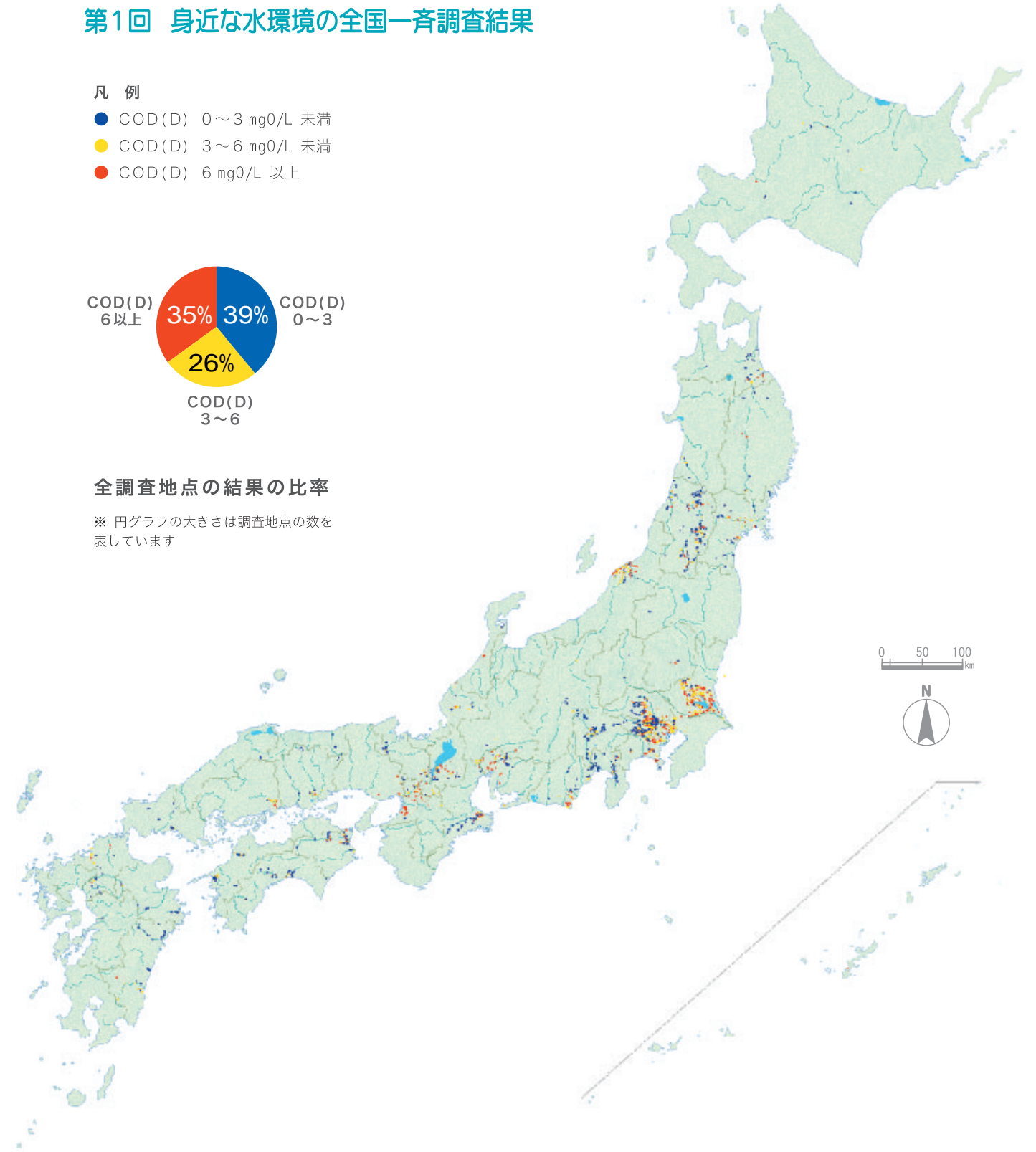
凡例

- COD(D) 0～3 mg0/L 未満
- COD(D) 3～6 mg0/L 未満
- COD(D) 6 mg0/L 以上



全調査地点の結果の比率

※ 円グラフの大きさは調査地点の数を表しています



※ このマップは、平成18年6月4日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

※ このマップは、平成16年6月6日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

IV 各ブロックでの調査結果

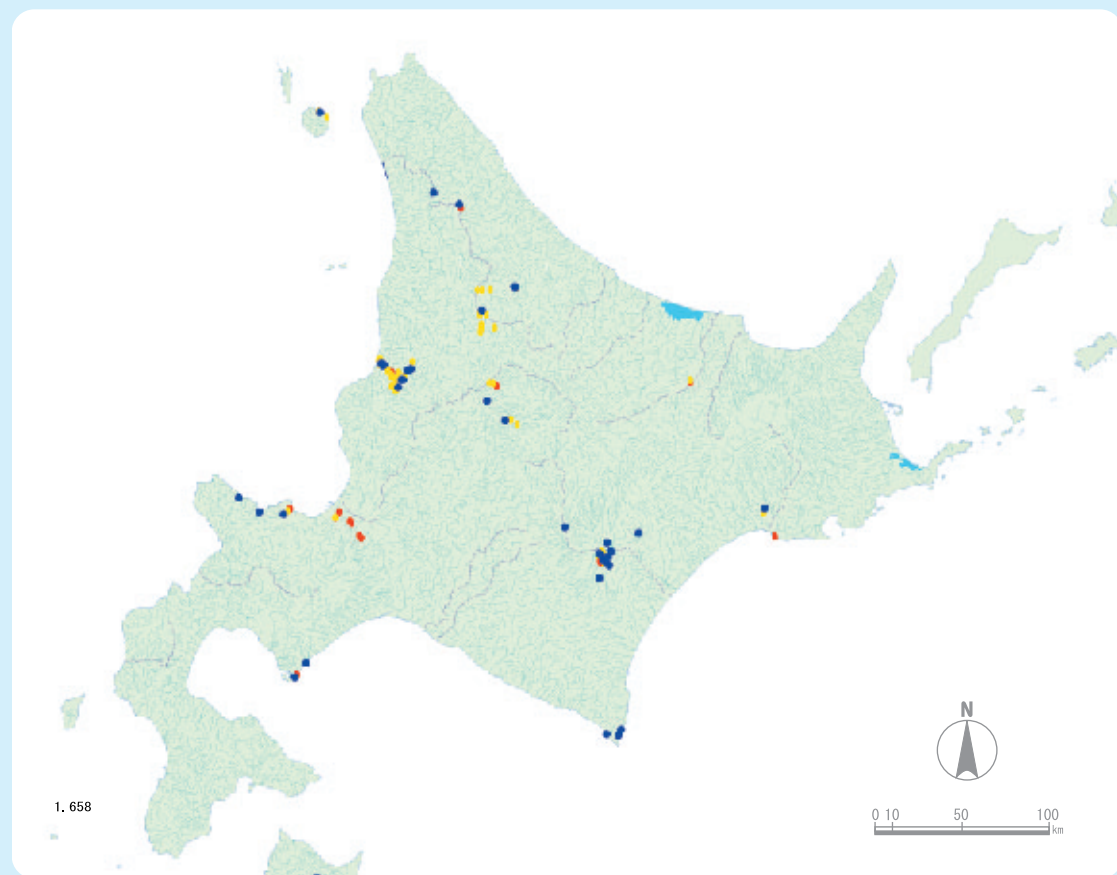
北海道地方

実行委員のコメント

井上 幸人 NPO法人 天塩川リバーネット21

今年初めて参加しました。天塩川流域の9市町村にある会の各支部にて、6月の任意日に調査を行いました。地域外の旭川・札幌にも調査協力いただきました。調査箇所は、全部で31ヶ所です。「自然の豊かさ」が自慢の地域として、良質な水質を疑っていませんでしたが、今回の調査結果はいささか意外でした。（調査員皆納得がいきません）

今年は調査日がバラバラでしたので、原因分析も出来ません。来年以降は、調査日の統一を図りながら進めていければと思います。



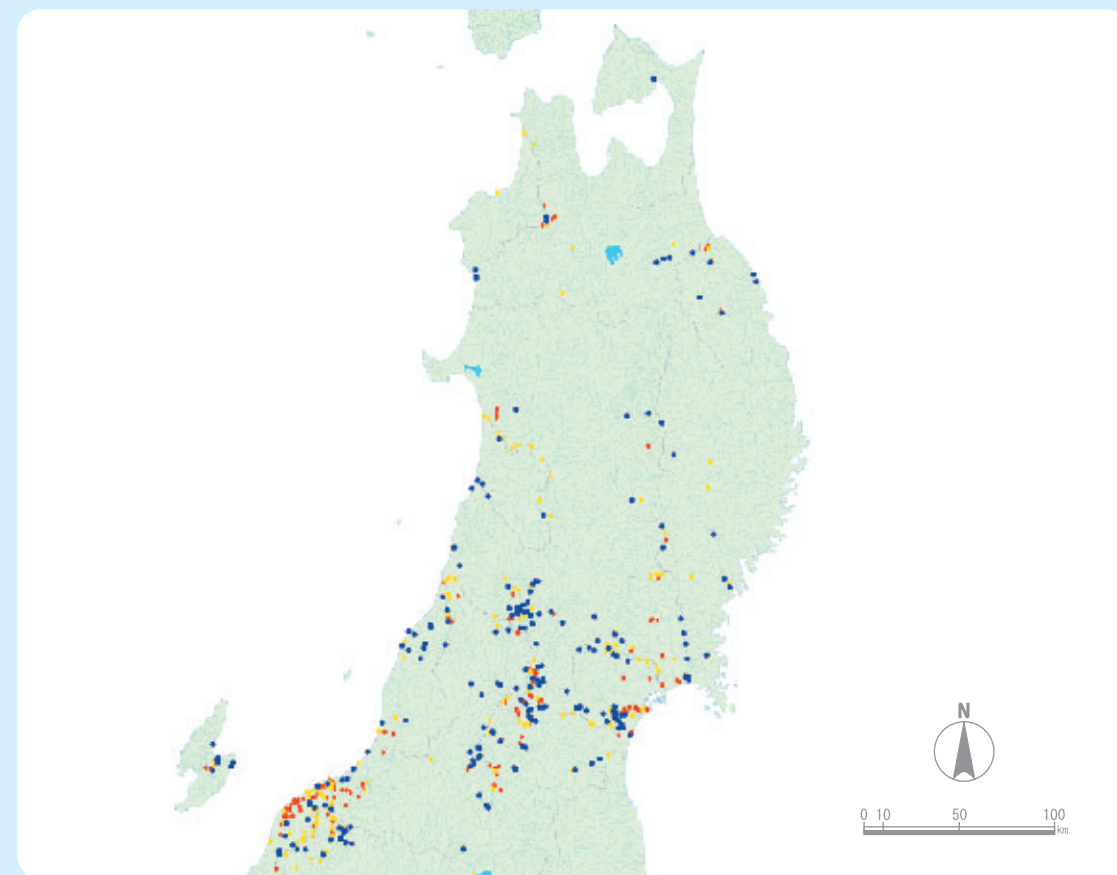
- 凡例
- COD(D) 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D) 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D) 6 mgO/L 以上

東北地方

実行委員のコメント

金子 博 NPO法人 環境協働組織・グラウンドワーク庄内

身近な水環境を市民が中心となってモニタリングする意義の一つに、「現場に行く」ことが挙げられる。山形県で言えば、人口の0.1%にあたる県民（1,116人）が今回参加したことになる。高知・仁淀川の仲間の創作である石像「同じ空を見上げて」が象徴してくれた、国土・郷土の環境を自らモニタリングする意義をこれからも共有したい。



※ これらのマップは、平成18年6月4日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

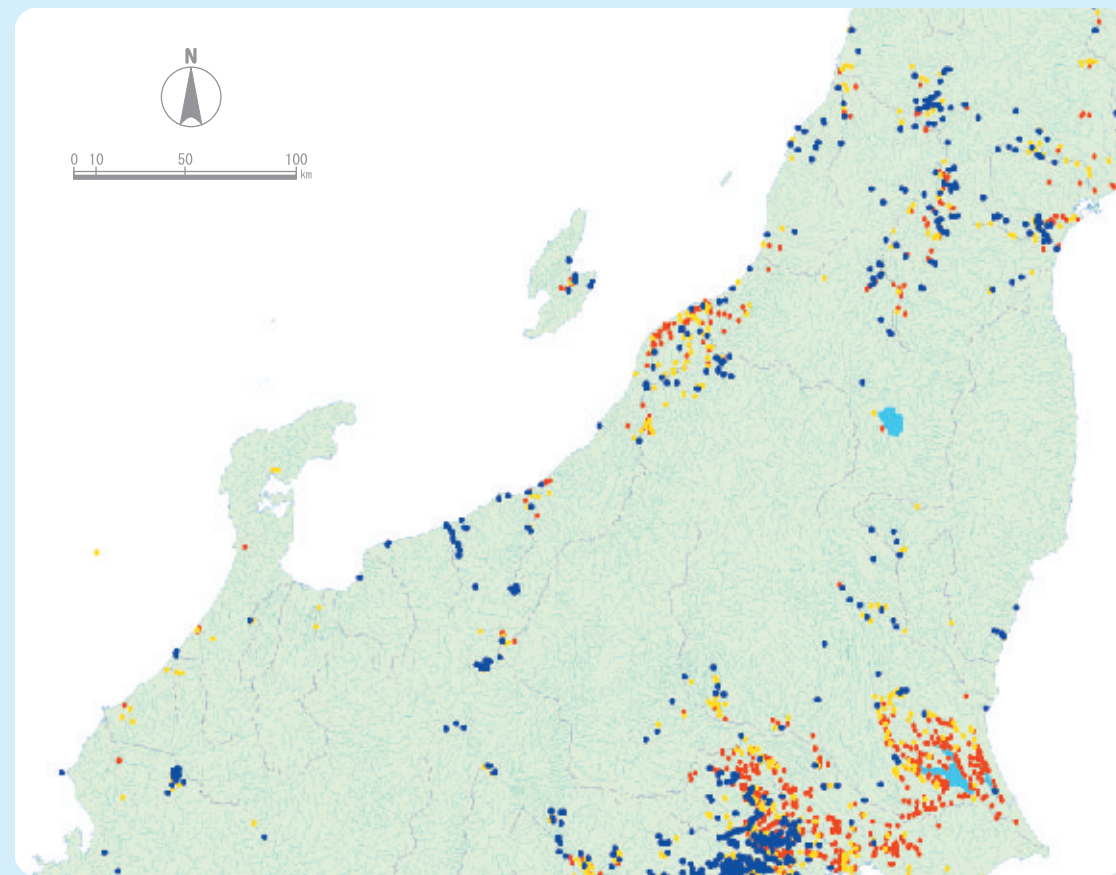
- 凡例
- COD(D) 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D) 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D) 6 mgO/L 以上

北陸地方

実行委員のコメント

加藤 功 NPO法人 新潟水辺の会

今年は空白であった県北と佐渡島の河川を加えた216個所の水質調査が、1企業、29団体、4個人、841名の参加で行われました。結果は農村部でも意外とCOD値が高く、課題を抱えた地区もありました。今後は水質調査やごみ拾いの啓発と共に、「水を考える講座やシンポジウム」を行いながら、「子どもたちが安全に泳げる水質の川」を目指してゆきます。

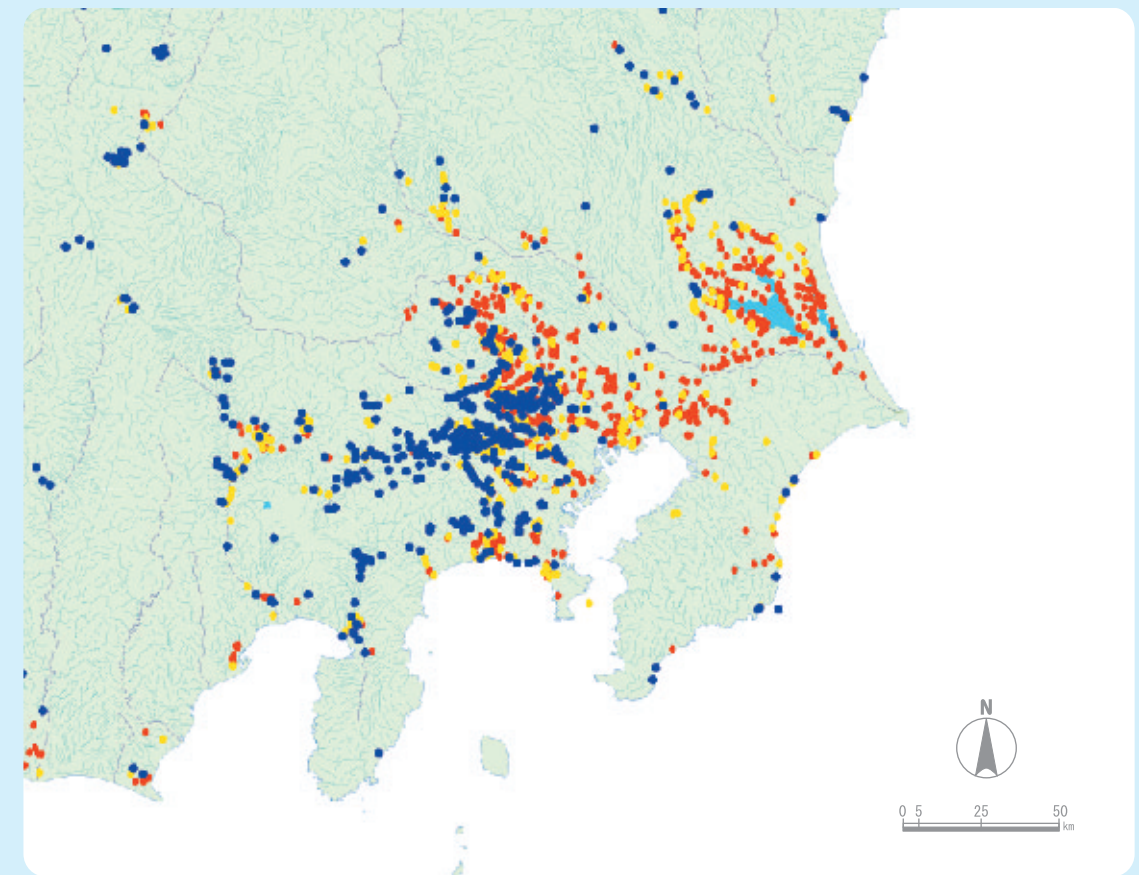


関東地方

実行委員のコメント

風間 ふたば Yamanashi みずねっと

この調査も3年目に入り、年中行事となった参加者も増えました。各地域での主催者も参加者もだいぶ慣れて、調査そのものはスムーズに進むようになり、また参加者の輪も広がったのではないのでしょうか。これからは、調査の継続の重要性を認識しつつも、その先について、みんなで少しずつ考え始めたいと思っています。



※ これらのマップは、平成18年6月4日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

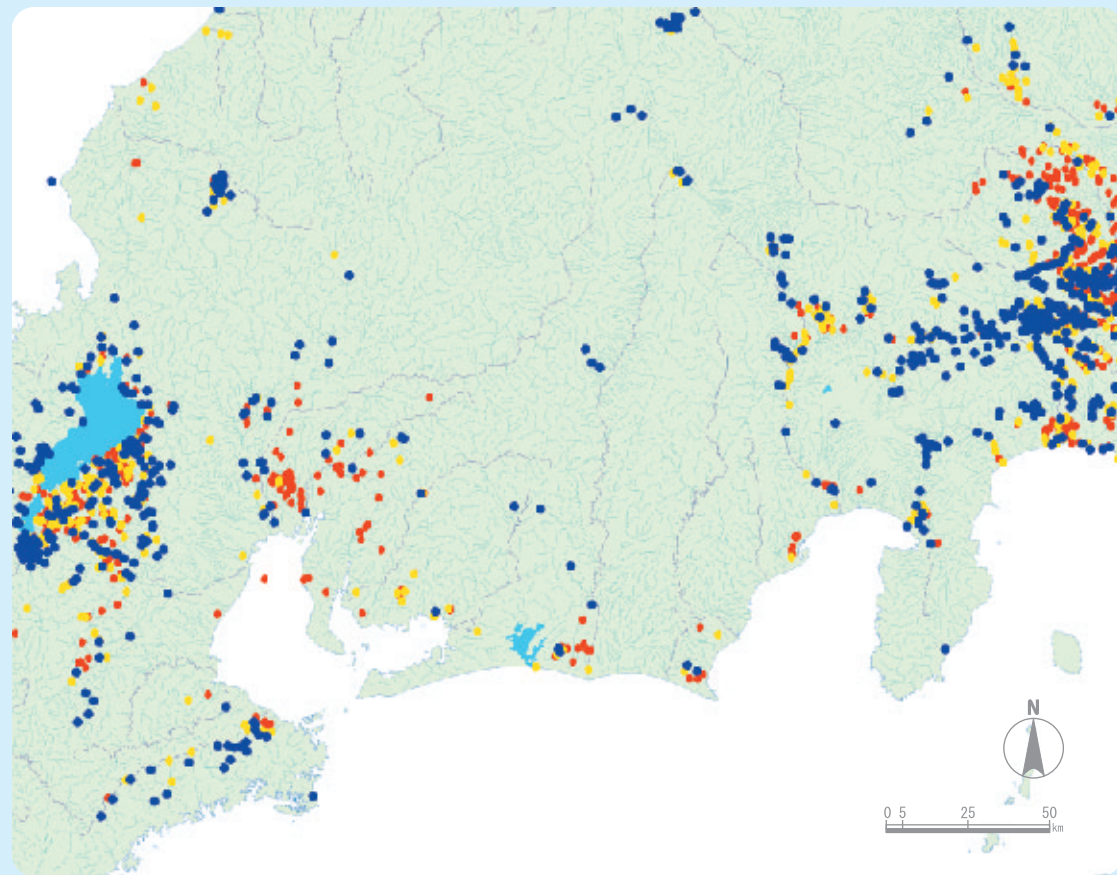
- 凡例
- COD(D) 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D) 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D) 6 mgO/L 以上

中部地方

実行委員のコメント

沖野 外輝夫 諏訪環境まちづくり懇談会

長野地域は8団体の参加で昨年度よりも減りました。調査地点は64地点で、これは昨年とほぼ同じです。長野県下の河川水質は全国的に見ても良い方で、昨年と大きく変わりはありませんでした。これは上流域のことですから当然の結果です。今年も長野県内の各団体との連携が上手く出来なかったことを反省しています。



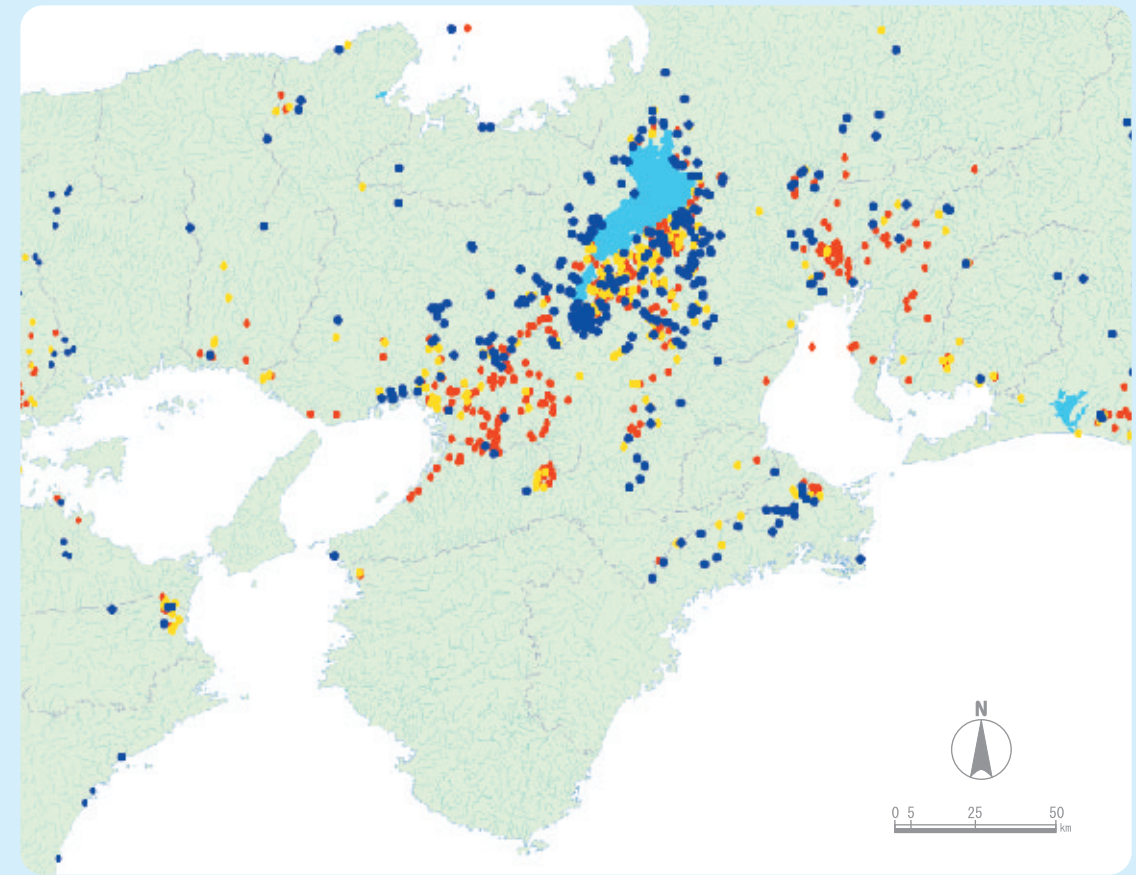
近畿地方

実行委員のコメント

山崎 久勝 NPO法人 蒲生野考現倶楽部

滋賀県(琵琶湖周辺)の全国一斉調査は、昨年に比べ約27%増の600余地点となり、県民の水環境の意識の高さが表れていると思います。しかし、県内の調査地点をマップで見ると琵琶湖全体が満遍なく調査されている状況ではなく、湖西、湖北地域は調査数がまだ少なく、今後の課題として残されていると思います。

各河川から琵琶湖に流入する水質を把握することはとても大切なことで、少しでも調査地点の増加に務めたいと思っています。



※ これらのマップは、平成18年6月4日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

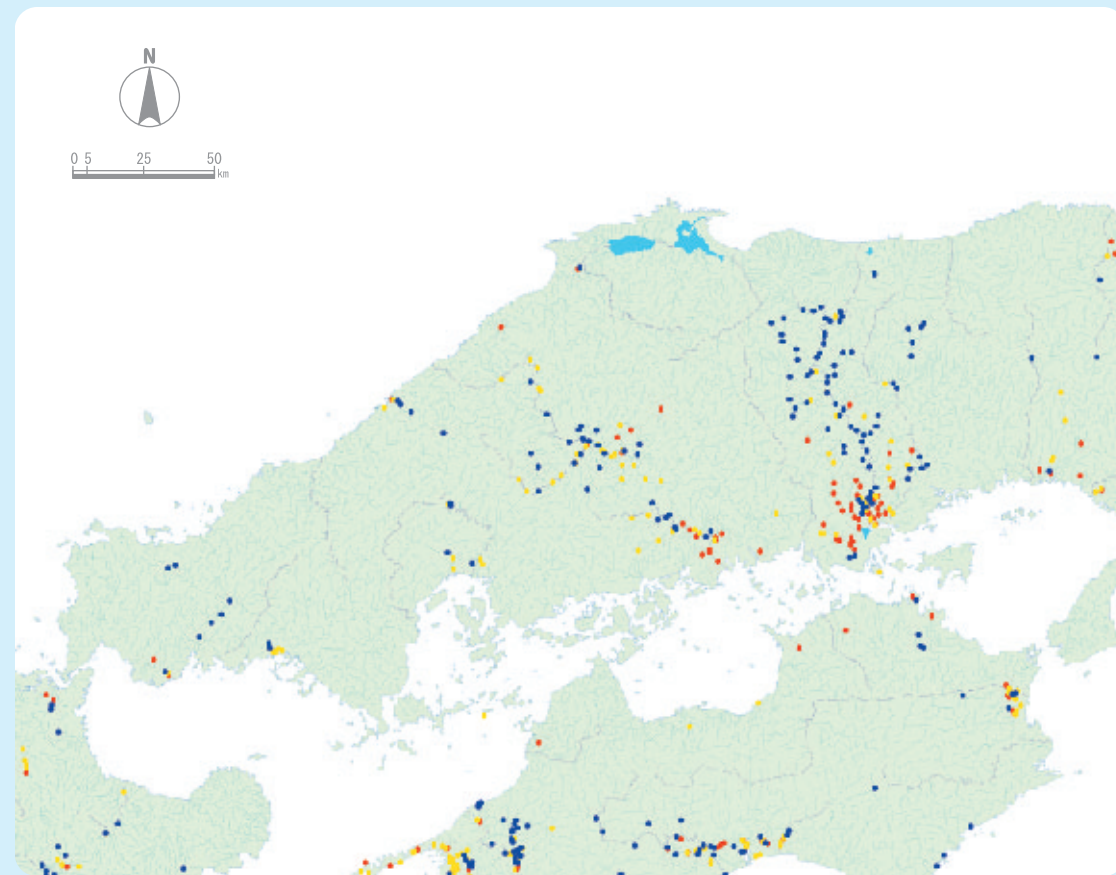
- 凡例
- COD(D) 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D) 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D) 6 mgO/L 以上

中国地方

実行委員のコメント

池田 満之 旭川流域ネットワーク

中国5県では、核となるネットワークや団体があるところは活動も伸びていますし、本調査が定着化しつつあります。今後、さらにこの活動を活かし伸ばしていけるように、中国5県における本調査の参加者が集まり、調査結果を共有して話し合う交流と解析の場が、行政やマスコミならびに水質の専門家も交えて持てればと思います。



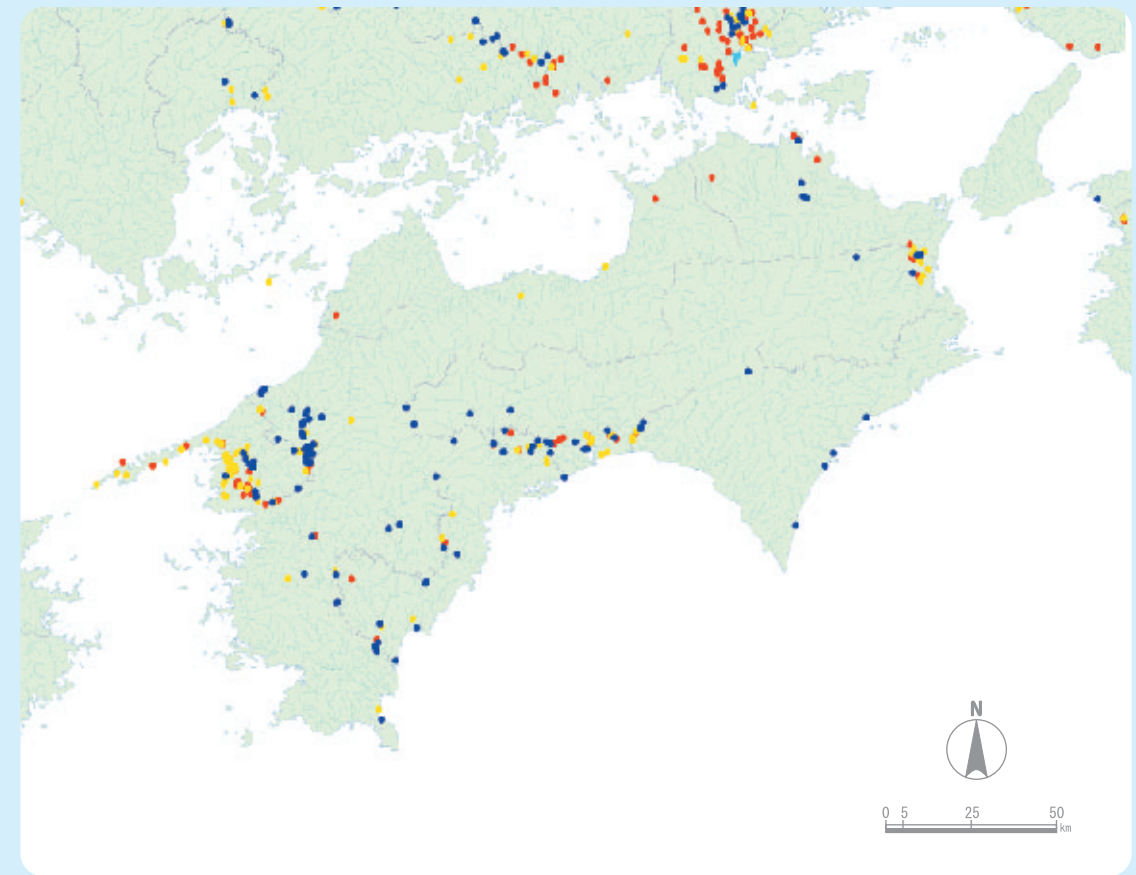
四国地方

実行委員のコメント

生野 宣宏 NPO法人 仁淀川お宝探偵団

今回は独自に、GISが使えることになったので、仁淀川流域の水質マップを作成しました。マップにするのに、50ポイントは欲しいので、急遽いろんな団体や学校に協力を求めました。締め切りに間に合わなくて、結果として、全国一斉調査にエントリーできないデータも出ましたが、次回の参加に期待します。

今になって 子どもたちはパックテストより、水生生物観察や水切りの方が好きである事を発見しました。同じ空の下でパックテストをしているたくさんの仲間を感じてみませんか？



※ これらのマップは、平成18年6月4日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

- 凡例
- COD(D) 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D) 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D) 6 mgO/L 以上

九州地方

実行委員のコメント

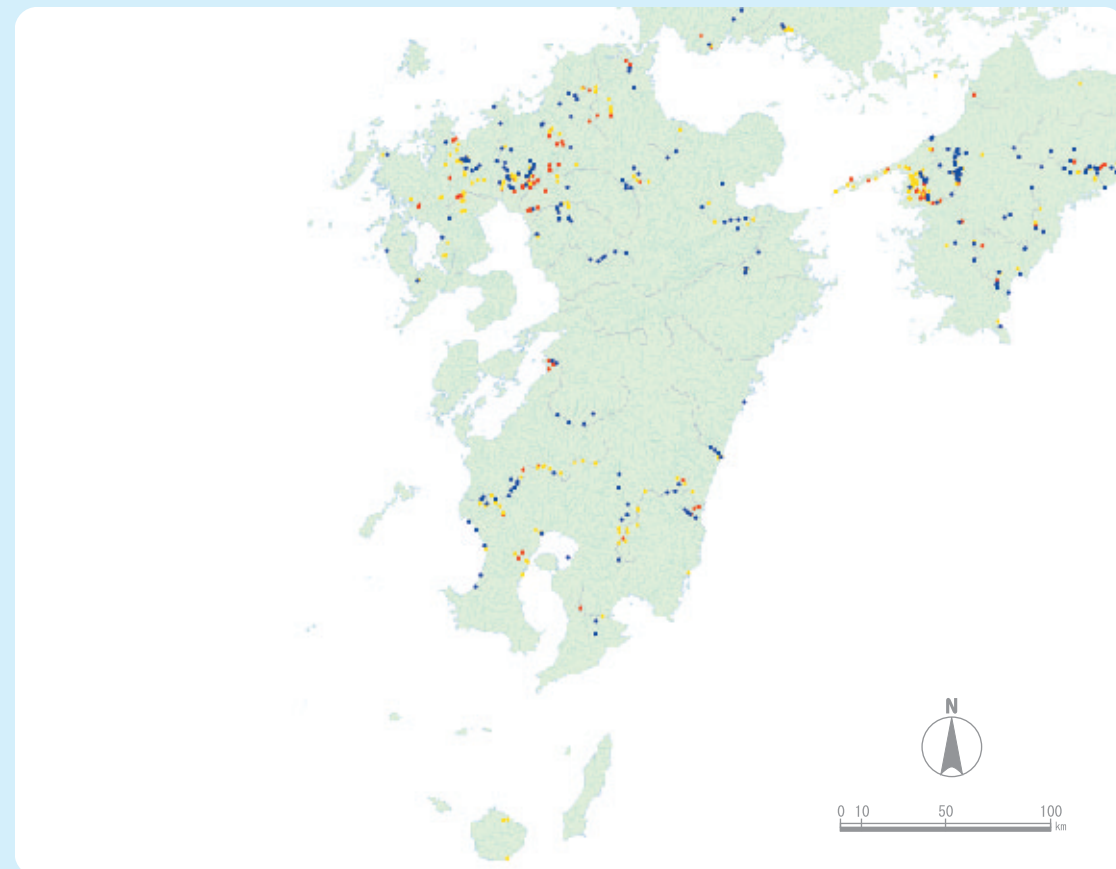
大西 正國 NPO法人 大淀川流域ネットワーク

今回で3回目、前回と同じ大淀川の24箇所を測定しました。

結果については、何ら変化は見られないが、参加者と協力者がかなり増えてきました。地域住民はもちろん、小・中学校の生徒や先生方、地区の区長さん、JA経済連の方々が楽しく参加されました。地元を流れている河川について理解が深まり、大切な自然の恵みなどを保全していこうという動きが少しずつ出てきました。

また、新聞・ラジオで報道され、県民の方々に啓発できたと思います。

環境問題は明るく楽しく安全に取り組むことで人々が理解協力してくれることが重要です。今年度は、宮崎県議会等の意見交換会を行う予定です。今後は、流域住民の河川環境浄化の意識の向上につながるよう活動を勧めたいと思っています。

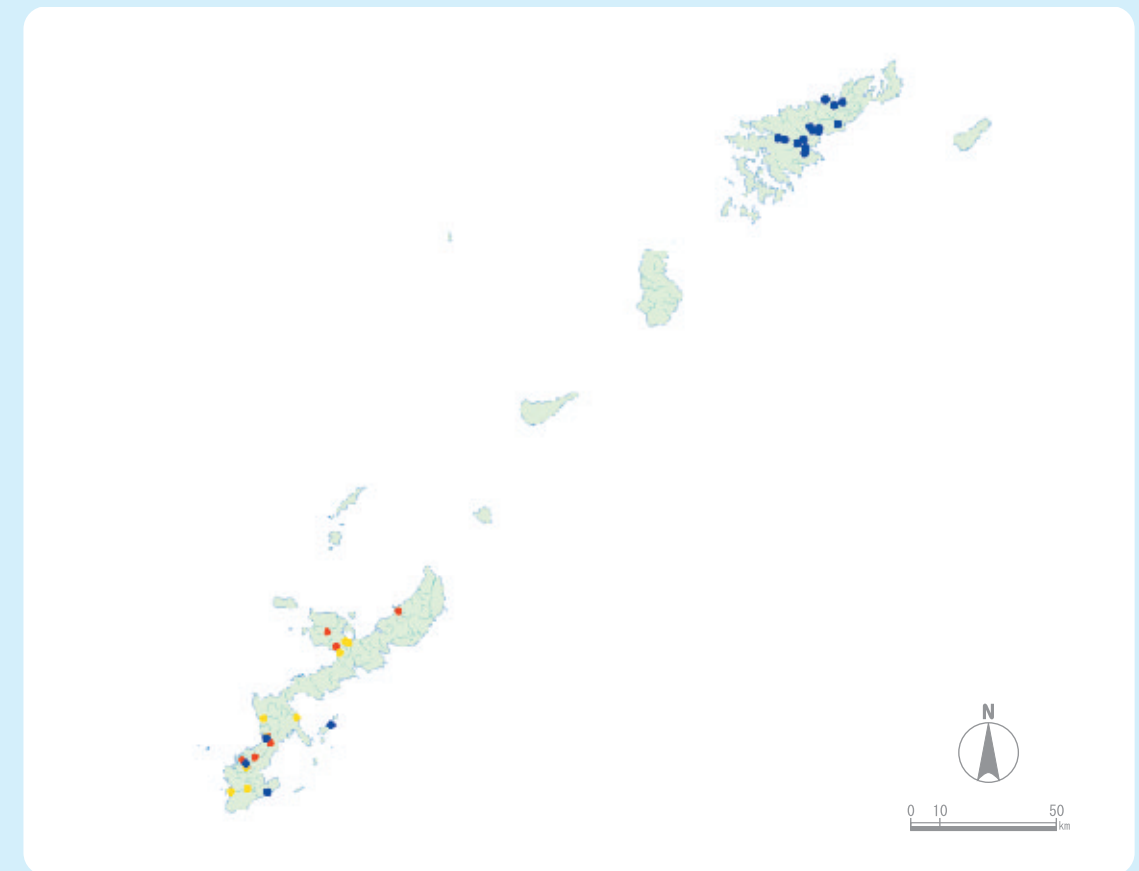


沖縄地方

実行委員のコメント

小野 朋典 リュウキュウアユを蘇生させる会

全国一斉調査は沖縄でも着実に定着しつつあります。沖縄では調査実施日が梅雨の時期に当たるのに、いつも雨に遭わずに調査できております。お天気も全国一斉調査に味方してくれます！小さな沖縄にもいっぱいある身近な水環境！もっともっと参加が増えて、沖縄県だけで水マップができる日を夢見てがんばっていきます！



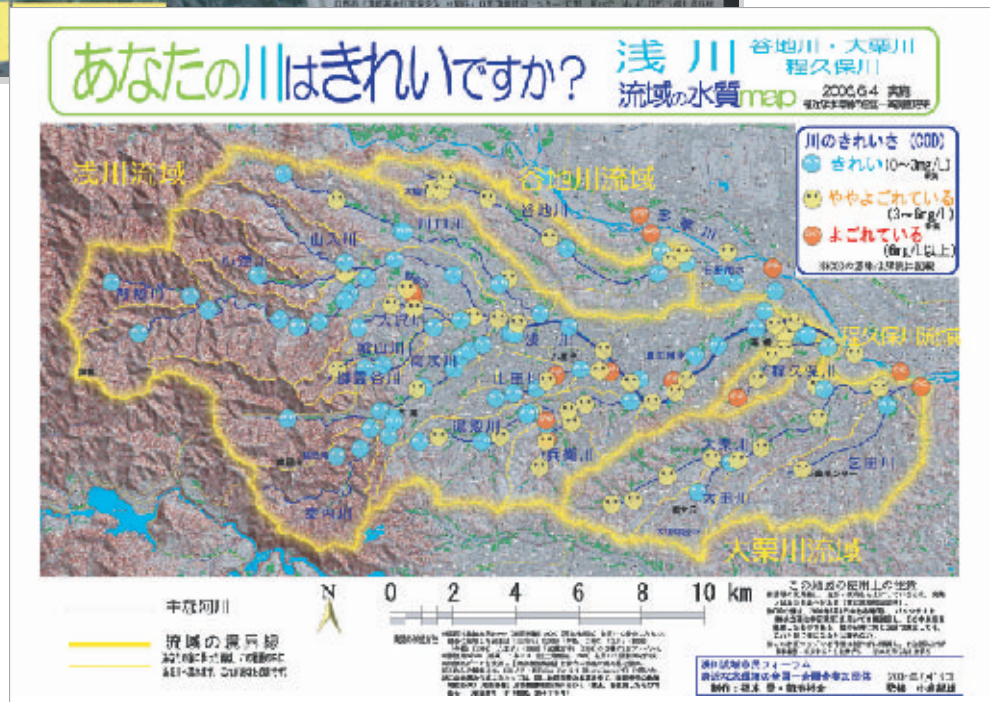
※ これらのマップは、平成18年6月4日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

V 一斉調査結果の活用事例紹介

本調査を中心に全国各地で独自にまとめたマップや報告書、ホームページ等の取りまとめ結果が事務局に多数寄せられています。特にマップについては各地、各流域で独自にまとめ方をしており、特徴的なものが数多くありました。それらの事例を紹介いたしますので、参加した皆さんの今後の活動に役立てていただきたいと思います。

事例1 浅川 浅川流域市民フォーラム（東京都）

わたしたちは興味ある人にはもちろん、初めて見る人にもわかりやすいようにマップをつくることを意識しました。「あなたの川はきれいですか？」というマップのタイトルの通り自分の家がどの流域にあるのかを読み取れるようにつくりました。3年間の傾向できれいな地点数は増えているように思えますが、天気の影響、測定誤差も考えられるため、継続していくことが重要だと認識しています。また、毎年、マップの作成メンバーが入れ替わっていきます。担い手を育成していけるしくみを各参加団体でつくりたいと活動も一層楽しくなることと思えます。



事例2 荒川 NPO法人 荒川流域ネットワーク（埼玉県）

NPO法人 荒川流域ネットワークでは、立正大学地球環境科学部環境システム学科後藤研究室と協働で、電子国土を用いて、水質調査結果の入力支援及び結果を公開するツールを構築し、インターネットで公開しています。この支援ツールは調査地点の位置をブラウザ上に表示される地図から特定でき、調査結果を入力することができます。



【荒川流域一斉水質調査支援ツールのサイト：<http://gisportal2.ris.ac.jp/watermap/arakawa/index.php>】

事例3 浜田川 EUTの会（島根県）

浜田川流域の小学校6校により合同で身近な水環境の全国一斉調査と現地調査報告会を行い、こうした調査が初めての子もたちも多く、興味、関心をもって実施できました。参加した子どもたち一人一人が、自分たちの測定したデータと他地点のデータを比べて考えたり、他の学校の子もたちと交流したりする中で、「みんなの浜田川&円通寺川」について熱心に考えることができました。

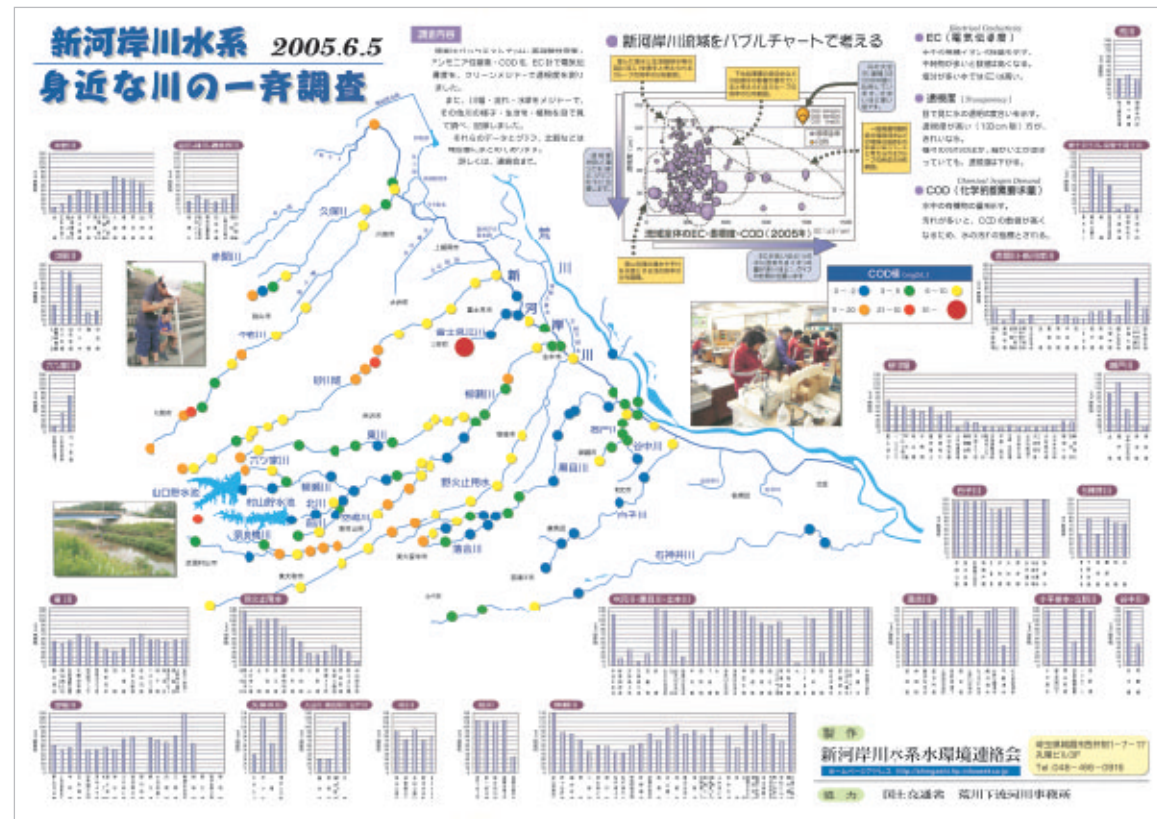


事例4 新河岸川 新河岸川水系水環境連絡会（埼玉県）

身近な川の一斉調査実施者から、自分達の地点データは判るが、上流・下流との差、又、流域の中で状況を知りたいとの要望が当初から寄せられています。

そのため、新河岸川流域では、個々のデータを取りまとめて報告書を作成し、年一回のデータ報告会で配布しています。報告書と併せて毎回参加者から好評なのは、以下に示す「水質と生き物のマップ」です。このマップの表面は、新河岸川流域の河川毎に源流から最下流部までの地点データを、「COD」については地図上の調査地点にポイントし、その色と大きさで調査結果を表現しています。また、「透視度」については棒グラフを用いて表現しており、流域全体が一目で判る「流域の水質マップ」となっています。裏面は、新河岸川流域で見られる「魚・鳥・植物・野生動物」の写真を掲載したものです。

この「水質と生き物のマップ」を見ていくと流域のそれぞれの川の特異性が判ってきます。今年のマップ作りでは、「流域の魚をベース」にした、「私の川の大事なお宝(水とみどり)」を流域から集めマップ化を進めています。



(上) 流域の水質マップ
(右) 流域の生き物マップ



事例5 琵琶湖 アクア琵琶（滋賀県）

水めぐみ館、アクア琵琶、国土交通省琵琶湖河川事務所、独立行政法人水資源機構琵琶湖総合管理所が共同で発行している「ピワズ通信」(発行部数20万部余り)は、琵琶湖・淀川流域の水の架け橋となる情報誌として、3ヶ月毎に近畿一円に配布され、多くの人々に読まれています。今回の記事は、より多くの人々に「身近な水環境の全国一斉調査」を広報し参加していただけるように掲載していただいたものです。来年度の実施では、この記事を見た多くの参加者が集まるよう大きな期待を寄せています。



ここに紹介した事例以外にも素晴らしい報告や写真が届いています。

それらはP.4にて紹介した本調査専用のホームページに掲載させていただきたいと思えます。また、ホームページではここに挙げた事例やその他いろいろな活動についての情報交換をできるように掲示板を設けていますので是非ご利用ください。事務局でもそれら問い合わせを受け付けていますのでお気軽にご連絡ください。

その他参加団体からの事例報告（一部）

- 高知県 『仁淀川の水質マップ』 NPO法人 仁淀川お宝探偵団
- 山形県 『ゴミマップ』 美しい山形・最上川フォーラム
- 新潟県 『水質調査マニュアルビデオ』 NPO法人 新潟水辺の会
- 宮崎県 『ラジオ番組等マスコミでの啓発』 NPO法人 大淀川流域ネットワーク

身近な水環境を調べよう! 第4回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い

小倉 紀雄 全国水環境マップ実行委員会 委員長

日頃、親しんでいる身近な水環境は簡単な方法で調べることができます。

身近な水環境の全国一斉調査は、市民グループと国土交通省・(財)河川環境管理財団が連携し、実施しています。本調査は、統一した調査マニュアルと簡単な調査器材(事務局から無償で配布)を用い、全国で一斉に行います。

調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。

第3回「身近な水環境の全国一斉調査」では8,400人を超す参加者で実施されました。

参加団体数：944団体【参考：第1回 531団体 第2回 1,000団体】(個人参加者を含む)

調査地点数：4,923地点【参考：第1回 2,545地点 第2回 5,018地点】

詳細な調査結果については、本調査専用ホームページ(URL：http://www.japan-mizumap.org)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

第4回「身近な水環境の全国一斉調査」は下記の要領で実施されます。多くの皆さまの参加を期待しています!

日時 2007年6月3日(日) 世界環境デー(環境の日)に近い日曜日

測定項目 気温、水温、COD、その他

測定方法 調査マニュアル、調査キットに基づき測定(※1)

応募締切 P22の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、2007年2月末日までにご送付下さい。なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

申込・お問合先 事務局 全国水環境マップ実行委員会事務局(問合せのみ)
(※2) 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 財団法人 河川環境管理財団内
TEL：03-5847-8303
連絡事務局 みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)
〒185-0021 東京都国分寺市南町3-23-2 小松ビル3階 TEL/FAX：042-327-3169
E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp URL：http://www.japan-mizumap.org

※1 調査キットは、参加申込者に2007年5月頃に配布予定です。

※2 上記以外にも最寄の国土交通省河川事務所でも承ります。

全国水環境マップ実行委員会名簿

実行委員長

小倉 紀雄 みずとみどり研究会 東京都

実行委員

野村 直也 NPO法人十勝多自然ネット 北海道
井上 幸人 NPO法人天塩川リバーネット21 北海道
金子 博 NPO法人環境協働組織・グラウンドワーク庄内 山形県
沼澤 篤 社団法人霞ヶ浦市民協会 茨城県
後藤真太郎 NPO法人荒川流域ネットワーク 埼玉県
丹野 忠弘 新河岸川水系水環境連絡会 埼玉県
倉 宗司 身近な川の一斉調査実行委員会 東京都
石田 幸彦 浅川流域市民フォーラム 東京都
佐藤 正兵 NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム 東京都
加藤 功 NPO法人新潟水辺の会 新潟県
風間ふたば Yamanashiみずねっと 山梨県
沖野外輝夫 諏訪環境まちづくり懇談会 長野県
北田 俊夫 NPO法人びわこ豊穡の郷 滋賀県
山崎 久勝 NPO法人蒲生野考現倶楽部 滋賀県
桑村 善義 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構 大阪府
池田 満之 旭川流域ネットワーク 岡山県
生野 宣宏 NPO法人仁淀川お宝探偵団 高知県
大西 正國 NPO法人大淀川流域ネットワーク 宮崎県
小野 朋典 リュウキュウアユを蘇生させる会 沖縄県

事務局

高橋 克彦 AMR
菅谷 輝美 東久留米ほとけとじょうを守る会
本間 君枝 みずとみどり研究会
梅本 誠子 東京農工大学
安達可奈子 東京農工大学
佐山 公一 みずとみどり研究会
岡下 淳 国土交通省河川局
小岩 真之 国土交通省河川局
鈴木 茂樹 財団法人河川環境管理財団
矢野 克己 財団法人河川環境管理財団

アドバイザー

岡内 完治 株式会社共立理化学研究所
今田 陽子 株式会社共立理化学研究所
星野 順子 みずとみどり研究会

オブザーバー

小堀 洋美 武蔵工業大学
伊藤 浩子 NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム

全国一斉調査 お申し込み先

FAX：042-327-3169 E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp

第4回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

2月末日までに必ずFAXまたはE-mailでお知らせ下さい

■ これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか

過去の参加あり 初めて

■ 参加グループ名

以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なると経年データとして結果が反映されません。

参加グループ名(参加者氏名)

変更前のグループ名

■ 参加グループの連絡責任者 個人参加の場合はご記入の必要はありません。

■ 連絡先 グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など。特にE-mailアドレスは、はっきりとお書き下さい。

住所：〒 -

電話 - FAX -

E-mail

■ 調査予定地点名 河川名など(例) ○○県 ○○川、××用水路、△△池。

■ 河川以外の水路・水辺等で調査を実施しますか

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。「はい」とお答えの方は別添「河川以外の調査了解調査票」にご記入の上、事務局に申し込み用紙と一緒に提出ください。後日発送の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。

はい いいえ

■ 調査予定日 ただし、結果の返送締め切り日(6月末日)より前に実施してください。

6月3日に実施する 6月3日に実施できない【その場合の予定 月 日】

■ 調査予定地点数 水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください。

地点

■ マニュアルの配布について

調査キットと調査マニュアル類が5月頃に事務局より送られてきますが、マニュアル類に関しては専用HPからもダウンロード可能です。経費節減にご協力ください。

マニュアル類の配布を希望 マニュアル類はHPからダウンロード可能なので送付は不要

■ 今後の連絡手段

今後のご連絡についてはEメールを中心に行わせていただきます。Eメールをお使いでない方は、ご希望の連絡手段を、以下にチェックして下さい。

FAX 郵便物など 電話